

OB通信

鳳 翮

復刊第 1 1 号

= 2 0 1 2 年 1 2 月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翮会

目 次

はじめに	鳳翔会会長 武富 敏夫	1
1 本部・支部連絡先		2
2 OB会（鳳翔会）総会		3
（1）平成24年 YUWV OB会（鳳翔会）総会報告		3
（2）収支計算書及び貸借対照表		5
（3）平成24年OB総会を終えて	九州支部 龍 純二	7
3 会長及び事務局からOB会員の皆さまへ		8
4 会員近況		10
（1）近況報告	東京支部 松永 烈	10
（2）今回は自転車の話です	関西支部 池田 純	12
（3）OB会に初参加して	山口支部 日南本一成	13
（4）近況報告	九州支部 中村 幸子	14
（5）萩往還語り部について	山口支部 古谷真之助	15
（6）元気だよ！「よたよた登り」のリタイア組登山親睦会	東京支部 木村 均	17
5 各支部活動状況(平成24年5月～10月)		18
（1）北八ヶ岳、「黒百合ヒュッテ」から「天狗岳」登頂	東京支部 秋山 高弘	18
（2）霧立越トレッキング	九州支部 武富 敏夫	20
6 同期会だより		22
同期登山に想う	関西支部 尾儀 一郎	22
7 ワンゲル今昔		24
近況と思い出の断片(故山本前会長を偲んで)	広島 前田 邦男	24
8 現役活動報告		26
（1）夏合宿結果報告		26
（2）春合宿コース紹介		30
9 編集後記		30

はじめに

鳳翔会会長 武富 敏夫

仕事を離れた関係で、今年から健康維持と体力づくりのため、軽いランニングを開始しました。なまだった体をならすため、まずは市内の史跡を巡ったり、川の下流から上流にある源流を目指す等、目標を持ったランニングとしました、今では、自宅から100mほど離れた室見川の片道3kmの遊歩道を、毎朝早い時間から走ることが日課となりました。

川の源流といえば、山の会等で熊本県の球磨川や福岡県の瑞梅寺川、そして9月には宮崎県の上野原川(五ヶ瀬川)の源流へ行きました。源流の小さな流れの発生はその後のいくつもの支流を従えて、やがては海へと注ぐ大きな川となっていきます。

昭和30年代後半に、経済・文理・教育各学部の本部、工学部、農学部で、源流ともいべきワンダーフォーゲル部がそれぞれ設立され、今では創部51年となる歴史を持った山口大学ワンダーフォーゲル部という本流を形成するまでになってきました。これもこれまでの役員やOBの皆さま、そして現役部員のご協力によるものであり感謝申し上げます。これからもこの流れがとどまることなく発展するよう努力してまいります。

OB総会も地区持ち回りが定着し、今年も九州支部引受、11月3日(土)～4日(日)に小倉リーセントホテルにおいて、63名のOB会員の皆さまと2名の現役生の参加のもとに、盛会におこなうことができました。幸い両日とも天候に恵まれ、フリー参加の「風師山登山」と、「門司港レトロ散策」も楽しむことができたのではないかと思います。OB総会開催のために、準備から企画・運営にあたられた九州支部の会員の皆様に改めてお礼を申し上げます。ご都合により不参加の皆さまには、総会の議事内容及び会計決算を報告していますのでご一読ください。また、来年のOB総会は、関西支部引受で開催することが、総会で決議されました。関西支部の会員の皆さまよろしく申し上げます。

支部活動の活性化や同期会の開催、さらには地域を超えた会員との山行き等、OB会の組織化への取り組みがある程度、会員相互の交流にやっと役に立ってきた感がいたします。今回のOB通信には、支部活動としては東京支部の八ヶ岳山行きや九州支部の霧立越山行きを、また、昭和50年3月卒の北アルプスでおこなわれた同期会便りとりタイヤ組登山親睦会の記事等を掲載しています。会員の維持・拡大には、こうした支部活動の活性化によるOB間の縦のつながりや、同期会開催のOB間の横のつながりが一番効果的ではないかと思います。執行部としても会員等の住所情報の正確な把握や会員でない方へのOB通信の送付等をとおして、会員の維持・拡大に取り組んでまいりますので、会員の皆さまには引き続きこのような活動を積極的におこなっていただくことを期待しています。

残念ながら一方では、平成以降卒業の会員数が少ないことに対し危惧しています。今年のOB総会でも平成以降卒業の参加者が63名中5名でした。平成以降卒業者は社会においても重要な役割を担う年代であり、OB会活動への積極的な関与は難しい面があると思いますが、引き続きOB会への入会や総会参加の呼び掛けに努めてまいります。

最後に、今年から会長をお引き受けしましたが、この1年間はOB会の保有財産の確認や会員情報の整理等に大変時間をとられました。前役員や現役生の協力を得て整理することができ、やっとスタートラインについたところです。来年は任期最終の2年目を迎えますが、今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。

1 本部・支部連絡先

(本部)

OB会会長

武富 敏夫 (経・45卒)

OB会副会長

池富士 清 (農・47卒)

OB会事務局長

【平成24年12月まで】

馬屋原 範聡

【平成25年1月以降】

浦島 遼平

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経・49卒)

副支部長 高田 哲生 (工・49卒)

事務局長 宮原 龍作 (経・50卒)

(関西支部)

支部長 池田 純 (工・51卒)

(山口支部)

支部長 池富士 清 (農・47卒)

本部OB会副会長と同じ

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経・39卒)

支部長 武富 敏夫 (経・45卒)

本部OB会会長と同じ

事務局長 龍 純二 (文理・50卒)

2 OB会（鳳翔会）総会

(1) 平成24年 YUWV OB会（鳳翔会）総会報告

平成24年のYUWV OB会（鳳翔会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告いたします。

- ・日 時 平成24年11月3日(土) 17:30~18:20
- ・場 所 小倉リーセントホテル
- ・参加人員 会員63名 現役2名
- ・議 事

九州支部本園氏が、総会出席者の承認を得て議長に選任された。

ア 決議事項

【第一号議案 平成23年会計決算報告承認及び監査報告の件】

会長より、「収支計算書」「貸借対照表」「振替受払通知票」「通帳コピー」に基づき、平成23年1月1日から12月31日までの収支状況並びに平成23年12月31日現在の財産状況の報告がおこなわれた。

次に、監査を代表して池富士氏より、3月23日会計帳簿等の監査をおこない、平成23年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であると報告がおこなわれた。

会員より、海浜合宿の目的等について質問があり、会長より回答がおこなわれた。

質問回答の後、平成23年会計決算報告は、出席者全員異議なく承認した。

【第二号議案 平成24年事業報告承認の件】

会長より、OB会則第三章の規定に基づき、1月から11月までの事業結果及び今後の事業予定の報告がおこなわれ、出席者全員異議なく承認した。

なお、事業結果及び事業予定は次のとおりである。

ア OB総会の開催 11月3日~4日

イ 50周年記念誌「あるきの記」発行(印刷部数300冊、配布部数231冊)

ウ 第一回OB通信の発行 8月11日(発送部数235)

エ 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等

追いコン出席、新入生勧誘及び海浜合宿支援、部室保有資料の整理支援

オ OB会運営体制の整備

保有財産の確認(会費有効年の検証)、各種資料の整備、執行部事務処理手続の明確化等

カ 第二回OB通信の発行及び会員名簿の作成 12月中旬発送予定

【第三号議案 平成25年総会開催地承認の件】

会長より、平成25年の総会開催地を「関西支部」で実施する旨提案があり、出席者全員異議なく承認した。

なお、議事終了後、関西支部長池田氏より実施するにあたっての挨拶がおこなわれた。

【第四号議案 ワッペン寄付申し出承認の件】

会長より、故山本前会長から「寄付申出書」により、ワッペン110枚の寄付申出があったので個人の意思を尊重し、この申し出を受け入れたいとの報告がおこなわれた。

会員より、ワッペン紛失の経緯についての質問があり、会長よりその経緯の報告がおこなわれた。また、ワッペンは、その後会員になった方へ配布してはどうかと提案があった。会長より記念誌も含めて、会員へ配布する旨の報告があり、質問と提案に回答後、出席者全員異議なく承認した。

【第五号議案 会則修正承認の件】

会長より、OB会則第六章三の「会長は会を代表し会務を総括する。」と規定しているが「統括」するが正しく、修正したい旨の報告がおこなわれ、出席者全員異議なく承認した。

改訂 第六章三 会長は会を代表し会務を統括する。

イ 報告事項

(P) 記念誌編纂を終えて

編集委員会委員長の山口支部古谷氏より、記念誌編纂を終えての報告があった。

(I) 記念誌予算執行状況について

昨年の総会で、記念誌発行予算として30万円が承認されているが、発生した費用は241,022円であり、会員以外の関係先へ18冊寄贈した旨の報告があった。

(U) 平成24年度現役活動報告について

現役馬屋原君より海浜合宿、夏合宿、中四合ワン等の特記事項について簡単に報告があった。

※故山本前会長のご令室太起子様から、OB総会に当たり3万円の志があったことをご報告します。

以下に、会長宛てに寄せられたお手紙をご紹介します。(現文のまま)

武富会長様

秋の快晴が続きますね。お元気でしょうか。昨年の秋吉での総会の前からずい分武富さんにはお世話になりました。いつぞやごいっしょに山に登ったりしましたので、私としては旧知の仲のつもりでおります。会長職を引きつがれ、夫が病気そして死亡ということで、平常の引きつぎ以上のご心労をおかけしたことをつくづく申し訳なく、また感謝しております。

十一月三、四日とOB総会があると聞いております。どうぞ、ご盛会になりますようお祈りしております。まことに不十分でございますが、会のもり上がりの一助にでもしていただけたら、夫も山の頂上、もっと上の点の方からにっこりと笑うと思います。どうぞご笑納下さいませ。

山本太起子

(2) 収支計算書及び貸借対照表

ア 収支計算書(平成 23 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

(単位：円)

収入の部

平成 23 年入金会費	95,000
平成 23 年預り金振替	277,000
寄付金	10,000
預金利息	8
収入の部合計	382,008

支出の部

平成 23 年 OB 通信 8 月号関連	46,707
平成 23 年 OB 通信 12 月号関連	54,499
OB 総会関連	3,756
ホームページ運営費	5,000
新入生勧誘助成費	50,000
海浜合宿助成費	50,000
事務局費	10,000
その他経費	9,656
経常支出計	229,618
50 周年記念贈呈	200,000
経常外支出計	200,000
支出の部合計	429,618

収支

平成 23 年収支	▲ 47,610
-----------	----------

剰余金

前年繰り越し	703,596
翌年繰り越し	655,986

注) 収入の部

寄付金 武富氏より 10,000 円

支出の部

- ① 新入生勧誘助成費及び海浜合宿助成費は、いずれも新入部員獲得等の費用として鳳翔会から助成しているものです。
- ② 事務局費は事務局業務のご苦労に対して支払いしているものです。
- ③ 当年は 50 周年記念贈呈 200,000 円を支出していますので、経常収支は次のとおりとなります。

収入の部	382,008 円
支出の部	229,618 円
収支	152,390 円

イ 貸借対照表(平成23年12月31日現在)

(単位：円)

	科 目	期首残高	当 年		期末残高
			増 加	減 少	
資産の部	現金	356	0	356	0
	預金				
	広島郵便貯金C	1,766,315	495,000	427,164	1,834,151
	郵便預金通帳	12,925	8	0	12,933
	預金計	1,779,240	495,008	427,164	1,847,084
資産合計		1,779,596	495,008	427,520	1,847,084
負債の部	未払費用	0	2,098	0	2,098
	会費預り金				
	平成23年	277,000	95,000	372,000	0
	平成24年	226,000	127,000	0	353,000
	平成25年	182,000	62,000	0	244,000
	平成26年	136,000	56,000	0	192,000
	平成27年	85,000	58,000	0	143,000
	平成28年	55,000	48,000	0	103,000
	平成29年	30,000	21,000	0	51,000
	平成30年	26,000	6,000	0	32,000
	平成31年	18,000	6,000	0	24,000
	平成32年以降	41,000	6,000	0	47,000
	会費預り金計	1,076,000	485,000	372,000	1,189,000
負債合計		1,076,000	487,098	372,000	1,191,098
剰余金	剰余金	703,596	0	47,610	655,986
負債及び剰余金合計		1,779,596	487,098	419,610	1,847,084

(3) 平成24年OB総会を終えて

九州支部 OB総会実行委員長 S50年卒 文理学部 龍 純二



平成24年のOB総会は北九州（小倉・門司地区）での開催でした。準備が始まったのは1月の新年会でした。篠栗地区と北九州地区の2案で2月から下見をして開催地を決定することになりました。2月に篠栗地区・若杉山に下見山行を実施しました。3月に北九州（門司・小倉）の下見を行い、4月に北九州に決定しました。

11月3日の当日はお天気にも恵まれ、風師山コース（24名参加）、門司港レトロコース（10名参加）ともに爽やかな秋の一日を楽しむことができました。総

会・懇親会参加者は66名となり、九州支部の開催では一番多い人数となりました。ご参加の皆様には感謝を申し上げます。

風師山コースでは小森江駅に集合し、12:15に出発、子供の森公園で先発の人達と合流しました。子供の森公園からは、途中の急坂をジグザグに登ります。汗をかいたところで1回休憩。尾根に登り上がり、左へ向かう。3つあるピークのひとつ風頭（かざがしら）に到着（13:35）。ここからの眺めはすばらしく、眼下には関門海峡、巖流島、対岸の下関、彦島、響灘、右手には壇之浦、関門橋、周防灘と、眺望を楽しみながら昼食をとりました。「山よ友よ」の碑の前で記念写真を撮り、出発しました。風師山、南峰とピークを越え、子供の森公園まで下りて来ました。大体予定通りの時間に到着しました。

小倉リーセントホテルでは18:30から懇親会が開始となりました。永沼先輩の乾杯の音頭で乾杯の後、永沼先輩の写真集「我が青春の山口」の映像を見ていただきました。また、日本百名山登山まであと一座を残すだけになっている上田功さんに百名山の話をしていただきました。あと一座は指宿の開聞岳とのこと、大きな快挙に拍手。恒例の山の歌の歌唱指導は古谷真之助君。思いがけず、歌詞の冒頭に風師山がでてくる下関西高の校歌を歌ってくれました。故山本充二会長を偲んで「あざみの歌」。「エーデルワイスの歌」は歌集を印刷したとき、これを今年はみんなで歌いたいと、選曲に入れてもらいました。「旅鳥」も歌い終わって、最後の締めは秋山先輩による博多一本締めで懇親会が終了しました。二次会は和室の二室を使って夜がふけるまで続けました。翌日11月4日は、お天気は午後から下り坂の予報になっていましたが、風師山登山の人（8名参加）は8時30分にロビー集合し出発しました。後で聞いたところ、子供の森公園までは車で送ってもらい、時間に余裕ができ矢筈山まで足をのばされたとのことでした。

お忙しい中、ご参加いただいた皆様ありがとうございました。お蔭で楽しい二日間を過ごすことが出来ました。来年は関西地区で再会できることを楽しみにしています。最後に、九州支部の皆様、ご協力ありがとうございました。OB総会を無事に終了することができました。今後共どうぞよろしくお願いいたします。

3 会長及び事務局からOB会員の皆さまへ

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先(平成 25 年 1 月以降)】

会長 武富 敏夫

事務局長 浦島 遼平

会費有効年に応じて、OB会新規(再)加入のご案内、OB会費納入のお願い、入会申込書、郵便局払込取扱票を同封しています。新規加入及び再加入並びに入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア OB会費未納のため2011年までに会員資格を喪失された皆さま及び新規加入の皆さま

OB会新規(再)加入のご案内、入会申込書、郵便局払込取扱票

新規加入及び再加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2012年の皆さま

OB会費納入のお願い

郵便局払込取扱票は8月のOB通信に同封しています

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000円

夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規に会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱わせていただきます。

(2) 記念誌頒布について

創部50周年記念事業の一つとして、記念誌を発刊しております。現会員でない方で購入ご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出ください。一冊900円で頒布いたします。印刷部数に限りがありますので在庫がない場合は、ご容赦願います。

なお、新規会員になられた方には記念誌を同封していますのでご確認ください。

(3) ワッペンの配布について

ワッペン110枚を、故山本前会長から寄贈していただきました。既に2007年12月10日現在のOB会員へ配布していますが、今回、その後会員となられた皆さまに配布しています。会員の皆さままで受領されていない場合は、会長までお申し出ください。

(4) OB総会及び懇親会の写真送付について

OB総会及び懇親会へご出席の会員の皆さまには、写真とCDRを同封しています。どうぞお受け取りください。なお、送付に当たっては万全を期していますが、もし同封されていない場合は、会長までお申し出ください。

(5) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

8月発行分 7月中旬
12月発行分 11月中旬

(6) Y. U. W. Vホームページについて

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。

Y. U. W. Vホームページ

<http://yamaguchiwv.yamagomori.com/>

(7) OB会ホームページ利用について

OB会のホームページの利用方法については、利用ガイドに掲載しています。ご不明な点は下記へお問い合わせください。なお、会則、会長等役員選出要領、役員のアップデートとOB通信の未掲載のものを掲載しました。

上記(6)のホームページ左の「リンク」をクリックすると移動したページに「山口大学ワンダーフォーゲル部OB会(鳳翔会)」という表記があります。ここをクリックすると「山口大学ワンダーフォーゲル部OB会(鳳翔会)」のホームページへ移動します。

4 会員近況

(1) 近況報告

東京支部 S49年卒 工学部 松永 烈

26日(月)、勤務先の国際科学技術財団のメールシステムが変更になり、それまでのメールを新しいメールフォルダーにインポートしている際に、宮原事務局長からの寄稿を支持されていたことに気がつき、ネタを探しての寄稿する次第です。ということもあり幹事の方には締切日を過ぎて申し訳ない。

さて、今年3月末で36年間務めた産業技術総合研究所(産総研)を退職し、上記財団に勤務しています。産総研は2001年に経済産業省工業技術院傘下の16研究所が統合して独法化した組織です。私は、1976年(昭和51年)に16研究所の一つ公害資源研究所に入所して以来、ずっと地熱開発研究を行ってきました。1980年の筑波移転以来、ほとんどをつくばで勤務していましたが、この4月からは自宅のある茨城県守谷市から東京都港区赤坂へ片道1時間半の通勤が始まり、いささか疲れ気味の状況が続いています。

さて、近況報告です。11月25日(日)につくばマラソンを走りました。上述した筑波移転の前から、たまに山に登る体づくりにと荒川の土手を数km走っていましたが、つくばに移転してからは山に登るよりも走って(飲む)方が多くなってしまいました。たまたま、筑波に移転した1981年に第1回つくばマラソン(ただし当時は30km)が開催され、苦しみながらも完走しましたが、残念ながら記録が残っていません。翌年1982年夏には、日米独の国際研究協力による現場実験でアメリカロスアラモスに派遣されたため、つくばマラソンに復活したのは1986年で、4:00:11で完走してサブフォー(4時間切り)を逃して悔しい思いをした記憶があります。その後、東京でのNEDO勤務などもありマラソンから遠ざかっていましたが、1996年からはほぼ毎年つくばマラソンに参加しています。下の表は手元に残っていた完走賞の記録をまとめたものですが、2005年~2009年の空白は、2005年の大会の2週間前に参加した岩井将門ハーフマラソンで右膝半月板を損傷したためです。完治に3年近く、さらにマラソンを走れるまでに1年以上かかりました。医者曰く、「齢をとってくると回復が難しいんだよね。じっくり治すんだな...」。記録を見ると、55歳以降は加齢の影響とともに、この間余り運動をできなかった効果が大きいのが良くわかると思います。皆さんも故障には気をつけましょう。

つくばマラソンの記録

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001
記録	3:38:11	3:20:56	3:32:55	3:16:38	3:18:33	3:14:59
年	2002	2003	2004	2010	2011	2012
記録	3:25:25	3:25:34	3:22:59	3:52:58	3:50:01	3:53:34

走る話はこれ位にして、ワングルとして本道の山の話に話題を変えましょう。就職して埼玉県川口市にいた頃は独身だったことと山へのアクセスも便利だったので、4~5回は東北、上越、秩父、アルプスの山に登っていました。筑波移転後は山に登らず走ってばかりの状態になり年1~2回のペースが続き、更に40歳以降はワングルOB会のハイキングだけという年も増えていました。その状況が変わったのは50歳を過ぎた頃からです。夏のシーズンに少し高い山でもと考え、2004年の夏に最も手頃な日光

男体山日帰りで行きました。単独行で標高差 1500m を 4 時間半で往復しましたが、下りを飛ばし過ぎて膝に負担をかけ過ぎた結果が、先に話した秋の右膝半月板損傷の引き金だったのではないかと思います。翌年春には広島県にあった産総研の中国センターに赴任しましたが、土日の休みは膝のリハビリのためにもっぱら自転車で走り回っていました。宿舎から半日で往復できる呉拝ヶ峰、野呂山等、周囲の山々に自転車（膝を痛めた 2004 年のボーナスで買ったクロスバイク）で登っていました。標高 500～900m の山々です。お蔭で膝も徐々に治り、中国センターからつくばに帰任する 2 年後の 2007 年 3 月には、広島周辺に在住のワングル OB・OG の皆さんと宮島の弥山に登るまでになりました。

つくばに帰ってからは、職員数が 1400 名を超える産総研でも最大の事業所の安全を統括する管理監になったため、事故などの際に緊急電話で直ぐに出勤ができるようにとのお達しで、もっぱらつくば周辺のジョギングで過ごしました。それでも、管理監の仕事にも徐々に慣れて、2009 年の夏には念願だった北海道利尻岳に単独で行きました。大学 4 年の卒論のため小樽近くの大江鉦山の調査に出かけた帰りに登ろうとして、途中雨で断念して以来、36 年ぶりに登頂を果たしました。翌 2010 年には同期の城戸君、一年先輩の小田さんと、南アルプスの聖・光岳を縦走しました。そして昨年夏には、城戸君と、守谷のジョギング仲間（当時 65 歳）の方と北海道へ出かけて、幌尻、雌阿寒、トムラウシ（城戸君はさらに十勝も）に登りました。幌尻での渡渉とブヨやアブ、更にトムラウシのコースの長さには苦労しましたが、天候にも恵まれて 1 週間の休みを有効に使いました。

今年 3 月の定年を迎えて、これでもう少し走ったり、山に登ったりできるのではと思っていましたが、兄嫁の状況です。というのも、多くの方が経験されているようですが、親の介護の問題です。一昨年頃から変だとは思っていましたが、昨年春、下関の実家で独居していた母親の調子が悪くなり、続いて 9 月には山形県酒田の家内の母親も倒れて入院してしまいました。幸い、私の親は昨年暮れに、家内の親も今年の夏に、それぞれ施設に入ることができましたが、母親と空き家になった実家の様子を見るためにほぼ 2 か月毎に下関に帰っています。

といいつつ、暇を見つけて山登りやジョギングは続けています。今年 9 月には知り合いの東北大学ワングル OB と 2 人で南アルプスの塩見岳へ 1 泊 2 日のテント泊で登り、翌週の土曜日には城戸君と中央アルプスの空木岳日帰り（前夜は駒ヶ根の先輩宅で酔っ払い泊）と年甲斐もなく頑張っています。城戸君とは、彼の 100 名山制覇につきあってよく一緒に登っていますが、皆さんの中で面白い山行を計画される際には是非声をかけてください。できるだけ付き合いたいと思います。

最後に、東京で近くに来る機会があれば声をかけてください。工学部 OB を中心に月 2 会（2 回ではなく、第 2 月曜日夕方）集まっています。たまに昔話も、近況話も良いですよ。

(2) 今回は自転車のお話です
各位様

関西支部 S51年卒 工学部 池田 純

またしても関西地区は訳ありで支部長が原稿を書くことになりました。しばらくお付き合いを。今回は私の自転車の話をします。自転車は人間の活動範囲を何倍にも広げる素晴らしい発明品だと思います。写真がそうですが、かれこれ8年整備をしながら乗り続けてます。自転車のタイプはいわゆるクロスバイクでマウンテンバイクとロードバイクのいいとこどり(どっちつかずというひともいる。)でどちらかというロードに近いです。購入時は25×700Cの細身のタイヤでしたが、通勤時の悪路に備え32幅に変えてます。またペダルはピンディングタイプではなく、履物が自由になるストラップにしています。通勤に使う兼ね合いからキャリアも取り付けてます。ほかに2台持っていたのですが人にあげたり盗難にあたりで今はこの一台だけです。



普段は片道20kmの通勤に、時々、遠乗りに出かけます。

遠乗りは会社の友人と行くことが多いのですが、近くの琵琶湖一周や淡路島一周、敦賀往復色々行きましたが、やはり一番良かったのは、しまなみ海道です。

関西からはちょっと遠いのですが、尾道から四国の今治まで島伝いに橋があり70kmの快適な、サイクリングロードです。瀬戸内の風を受けながら橋の上から海を見る最高のシチュエーションです。

写真はどこかの橋ですが、車とは別に専用の道があり、非常に見晴らしがいいことがわかります。

この文を読んで自転車を始めたいという方もおられると思いますが、自転車はママチャリでもいいのですが、やはりスポーツバイクをお勧めします。走れる距離が全然違います。スーパー等で買うのではなくハマれば一生の付き合いになるのでちゃんとした専門店で購入されることをお勧めします。10万円ぐらいのものがよいでしょう。



これぐらいになると使われている部品はしっかりしており耐久性があります。車輪はクイックリリースで、簡単に外れるようになっておりパンク修理や、輪行といって車輪外したまま専用の袋にパックし鉄道で目的地近くまで手荷物として運びそこからツーリングへ出発することができ大変便利なのです。

走行距離に応じて整備や傷んだ部品を交換するといつまでも乗り続けることができます。

ワンゲルOBの方はアウトドアスポーツが好きな方が多いと思いますのでレンタサイクル等でお試しされてはどうですか。

私は今年、山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会に入会し、今回初めて OB 会に出席いたしました。入会のいきさつは、昨年同級生の在郷君（文理学部）が、同じく同級生の古賀君と博多でお酒を飲み、その際古賀君の写真を私にメールしてきたのです。

古賀君は工学部だったため、1 年しか湯田で一緒ではなかったのですが、約 40 年ぶりの写真は全く別人でした。私は驚いて、「これが 1 年生の時に山口の駅で女子高校生に、草刈正雄と間違えられて取り囲まれた古賀君か？」と返信した次第です。

在郷君の返信は、「時の流れは残酷だ・・・」でした。

昨年、大阪出張の折に古賀君の会社を尋ねて参りましたが、応接で待っていると「変わり果てた??」古賀君がやってきて、「お互い街ですれ違っても、同級生とは分からないね！」と言われ、私自身の変身ぶりも改めて実感したのでした。

会食を取りながら、古賀君が OB 会に入会しているので、私も入会を誘われましたが、私は 1 年生の夏の合宿が終わって、半年で退部したので辞退したのですが、古賀君が半年も入部しておれば、入会資格は十分あると言われて入会した次第です。

OB 会では 11 月 3 日に、1 年先輩の本園さんたちに案内されて、「門司港レトロ散策コース」に参加したところ、参加の後輩に卒業年を聞かれ昭和 51 年卒業だと答えると、自分が生まれた年だと言われ、少々ガックリした次第です。

本番の OB 会では懐かしい顔ぶれにお会いでき、参加して良かったと思いました。同じテーブルに先輩の宮原さん・前原さん・同級生の藤本君・岩本君や田中さん、近くのテーブルにも、懐かしい顔ぶれを拝見し、約 40 年前を懐かしく思い出しました。

私も 40 年前とは姿かたちがガラリと変わっておりますので、なかには顔を思い出さないとと言われる先輩方もいらっしゃいましたが、当たり前のことで当時私は、痩せてガリガリでした。現在は世の中年と同様にメタボ、更にはフサフサあった髪毛は跡形もなくなり、丸坊主です。

これを見たゼミの先輩・上田さんになんと、「君は新興宗教の教祖さんか？」と冷やかされたのには正直参りました。（笑い）

11 月の中旬に再度、大阪で古賀君に会って OB 会の話をしたところ、彼は今回出席出来なかったので、「来年大阪で開催するのであれば、池田（藤本）君をしっかりと手伝わなければ」と言っておられました。

OB 会で約 40 年ぶりにお会いした皆さん、本当にありがとうございました！

学生時代ワングルの活動を熱心に行っていた方ではなかったので、OB会に入るのは……???…正直ためらっていました。それが3年前、武富さんが福岡の集まりと山行きに誘ってくださり、仲間に入れてもらいました。とっても嬉しかったです。ありがとうございます。

それで、いつまでも元気に山に登ったり、飲み会にも参加できるように、毎朝近くの宮地嶽神社まで、往復1時間ウォーキングをしています。そして週2回はプールで泳いだり歩いたりしています。

なかなかスイスイとはいかず、バタバタ手 足を動かしているのが実状です。

私は福津市に住んでいますが、福岡市の東部には立花山があります。7つの峰を持ち、天然記念物に指定されているクスノキの原生林が広がっていて、みんなに親しまれている山です。週1回は登って眼下に広がる福岡市街や博多湾を眺めてリフレッシュしています。

立花山は標高367mですが、三日月山(標高272m)への縦走をすると丁度良いコースになります。

立花口付近は立花みかんの産地ですから、おいしい“みかん”を買って帰ります。とっても甘いみかんです。まだ登ったことのない方は是非来てみませんか。

年に一度位は少し遠くの山へ行きたいと思っています。昨年の夏は念願叶って白馬岳へ登ってきました。

白馬大雪渓では、写真で見たのはここだ !! と感激してしまいました。無事に到着。頂上直下の白馬山荘で誕生日を祝い乾杯しました。

ビールのおいしかったこと。一緒に登ってくれた主人と娘に感謝です。

頂上から小蓮華山を越えて白馬大池へ下る途中の雷鳥坂では、本当に2羽の雷鳥が出迎えてくれました。とてもかわいらしく一緒に写真を撮りました。

次の山はどこにしようかな?と毎日のウォーキング中に考えているところです。

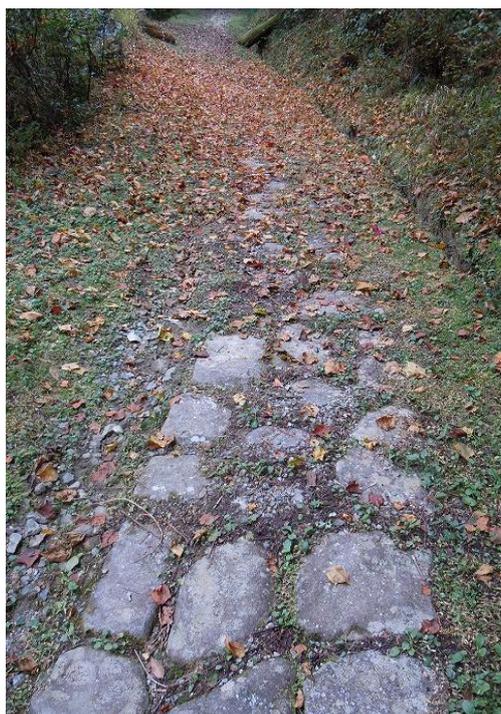
仕事は家で小さな「学研教室」を開いています。近所の小中学生の子供達と明るく“楽しい教室”をスローガンにして勉強しています。

自分の老化防止の効果が一番あると思うのですが、気持はいつも20代を心がけて毎日過ごしています。OB会でお会いしたら声をかけてください。



(5) 萩往還 語り部について

山口支部 S52 年卒 経済学部 古谷眞之助



(一升谷の石畳)

萩往還をご存知だろうか。江戸時代、毛利藩主が参勤交代の時に使用したいわゆる「お成り道」、当時の萩藩の主要街道で、萩から南東にほぼ一直線に延びて三田尻(防府)に至る約53kmの街道のことを言う。荒廃の一途を辿っていたこの街道は、昭和56年から63年にかけて文化庁の肝いりで調査・整備され、歴史の道として復活した。現在では街道歩きブームもあって、毎年かなりのお客様がここを訪れている。そして、これを読んでおられる方の大部分が、その一部ではあるにせよ、この萩往還を歩いているはずなのである。

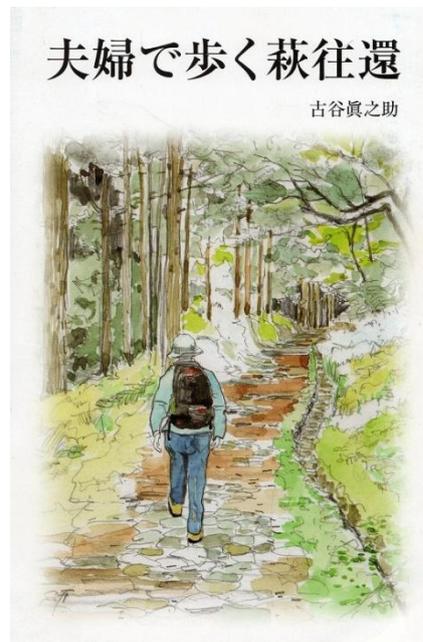
といっても、まだピンと来ない方のために種明かしをしよう。おそらく大半の方は板堂峠経由で東鳳凰山に登ったことがあるだろう。錦鶏の滝への入り口、通称天花坂口から六軒茶屋を経由して板堂峠に至る道こそ、実は萩往還なのである。詳しくは「あるきの記 創部50周年特別号」の66~68ページの写真を見ていただければと思う。

古いOBの方たちはもう少し多く萩往還を歩いていることになる。つまり、昭和59年(1984)3月以前に卒業した方は、東鳳凰山に登る時に、今は一の坂ダムの湖底に沈んでしまった萩往還の一部(上堅小路→虹橋→天花坂口)も歩いているはずだからである。

萩往還は1989年に国指定の史跡となり、1996年には文化庁による「歴史の道100選」に選ばれ、さらに2004年には「美しい日本の道500選」にも選ばれて益々多くの方が訪れるようになった。これに対応するため山口県、萩市、山口市、防府市では、街道のさらなる整備とともに、街道歩きのガイド役として「やまぐち萩往還語り部の会」を発足させた。

実は私は学生時代から萩往還に興味を持っていて、転職して山口市に戻ったので、2007年から仕事の合間に家内と萩往還を歩き始め、7区間に分けて萩往還を歩き通した。その経緯は「夫婦で歩く萩往還」と題して自費出版し、刷った300部はかなりの評判を得て短期間で完売できた。会が発足したのは出版の翌年2010年のことで、直ちに入会申請をし、1年間の事前研修を終えて、今年3月から語り部の一人としてお客様をガイドしているような次第である。

語り部は、いわゆるボランティアではなく、若干の費用をいただいている「有料ボランティア」なのだが、頂戴しているのは移動のためのガソリン代程度に過ぎない。それよりも、地元にこのような歴史ある街道が存在していることをより多くの方に知っていた



(自費出版本の表紙 自作)



(五文蔵峠手前ののどかな道を行く)

めるものである。

参加される方には高齢の方が多いため、会では余りハードではないお勧めコースを用意している。防府市内(1.0)、天花坂口～板堂峠～国境の碑(1.5)、佐々並～明木(2.5)、明木～涙松(1.5)の4コースで、数字は凡その所要時間である。詳細は下記のホームページをご覧ください。季節的にはやはり春か秋が絶対にお勧めである。もし全コース踏破をご希望であれば、もちろん対応は可能で、1泊2日の行程となる。

単に歩くだけなら経験豊富な OB 諸氏にとって何でもない山歩き程度だが、やはり語り部ガイドが萩往還の概説をし、途中の史跡ごとに詳しく解説するのを聞いていただければ、萩往還歩きの楽しみもぐっと深まること、請け合いである。山口にお越しの際には、是非計画していただければと思う次第。お問合せは下記ホームページ、または古谷メールアドレスまでどうぞ。



(右上 宇部高校同窓会の方たちと)

(右下 アメリカからのお客様と語り部)

武士姿のお二人は萩観光協会の方で語り部でもある。語り部のユニフォームは、菅笠に黄色いハッピーというものですぐに分かり、集合時には便利。

<http://hagi-okan.yamaguchi-city.jp/>

だき、楽しんでいただくことが楽しくて仕方ない人がガイドをやっているのである。そのため、街道の歴史のみならず、萩藩史や幕末史、幕末の志士と萩往還の関係や、さらには街道沿いの動植物の説明も行っている。もちろん、観光の国際化もあって海外の方をガイドすることもある。3月以降、延べ14回のガイドを行ってきたが、うち2回は外国人向けの英語でのガイドだった。当然事前勉強は不可欠である。例えば、ガイドする上で避けて通れない「参勤交代」「大名駕籠」などの言葉を英語でどう表現するか。あれこれと考えねばならない。久しぶりの英会話だが、これはこれで結構楽し



(6) 元気だよ！「よたよた登り」のリタイア組登山親睦会

—2012年9月3～5日、御嶽山・乗鞍高原の巻—

東京支部 S46年卒 文理学部 木村 均

スローライフを送るリタイア組有志が、2008年奥飛騨・中湯に泊まり西穂高・独標登山でスタートした恒例行事も5回(年)目を数える。これまで北ア焼岳、蓼科山、焼岳&乗鞍高原散策などを楽しみ、今年は木曾御嶽(3,067m)の「田の原登山口・王滝コース(=登山口標高2,180m)」に登る。

親睦登山を行事目的に掲げている？が、小生などは下山後(集中地)の温泉&アルコールの楽しみに重さがある口かも知れない。

本年は5人の登山組と、集中地参加の夫婦一組、の計7名が参加して涼しい信州の空気を味わう。

さて、登山組メンバーは晴れ男(女)をそれぞれが称していたが今年ばかりは天が味方せず、レインウェアを装着してのスタートになる(トホホ…)。——「雨の中登るのは止めよう」との発言が皆無であったことは(少なくとも小生には)驚きである！！

ポトポトと体にしっかり感じる雨粒を受けながら少しずつ歩を進めるが、ミルク色の霧の中、どの程度高度を稼いだのか周辺景色による比較・確認もままならず、皆の重い足どりが続く……。

しかし、天は我々を100%見放した訳ではなかった！登山途中で霧の切れ間から周辺・下界や頂上が見え始め、それとともに全員それまでの重い歩みが自然と軽くなる。喘ぎ喘ぎながらも、なんとか全員剣が峰に完登できたことは重畳なり！しかし二の池(日本最高所の湖)周回が頂上を覆う霧のため断念となったことは少々口惜しい！

一番『ザンネン』に思えるのは、われわれが登山口近くに下りてきた時を見計らったように、頂上ですっきり拝めるようなチャンスが到来したことであり!!(下は「ウソのように」晴れた時の記念撮影)

無事下山後、守沖(S44)夫妻と合流すべく乗鞍高原への峠道を急ぐ。

合流時間に合わすべく道を急ぐ先頭車を、あとの2台がフーフー言いながら山道を追って行く。

御嶽を下りてから乗鞍までの峠越え運転の方が御嶽登山よりも疲れた、との発言が生まれたのもうなずける。

—④ “目いっぱいスピード”ではなく、“ゆっくりとしたスピード”で道を急げば登山よりも運転の方がずっと楽です。念のため—

集中地(場所)は、昨年も当行事で連泊利用した標高1,300mにある

「ペンションのりくら」。到着後、白骨温泉源泉の濁り湯でゆっくり

疲れを落としたのち、宿の主人差し入れのワインで『乾パーイ〜!』。食事の後は談話室に場所を変え、もろもろの話題を肴に談笑する。あとはZZZ…で不覚…。

さて翌朝、御嶽一山では登り足りない小田氏は日本100名山踏破を目指し、独り2泊3日で中央ア



堺原氏頭上後方ピークは剣が峰、左へ王滝奥の院、継母岳

ルプス空木岳ほかに向かう（・・・信じられない！）。その他メンバーは御嶽登山など目的を達し、他山などに登る気力は毛頭無く、途中立ち寄りをしながらそれぞれの家路をたどる。

御嶽では、途中バテ気味になったり、コーヒー一杯を巡って場所確認の行き違いから霧の中をひたすらワンデリングしたり、の人もいて、わずかばかりの出来事・話題も生じたが、例年通りの楽しい行事となりました。ちなみにコースタイムは、登山口 6:12、剣が峰登頂 10:00 & 10:15—登頂時間差はウサギと亀チームの差、下山(登山口) 13:20 でした。

自由人だからこそ味あうことの出来る、『平日』の『静かな』山と宿(ペンション・山荘程度であるが)を楽しもうとの趣旨で年一度の催しを行っているが、新たなリタイアメンバーの参加を得て、より賑やかな行事、そして静かな山行の継続を願っている。

5 各支部活動状況（平成24年5月～10月）

（1） 東京支部

北八ヶ岳、「黒百合ヒュッテ」から「天狗岳」登頂

東京支部 S53年卒 経済学部 秋山高弘

紅葉シーズンに、山小屋の雰囲気が良いことで有名な「黒百合ヒュッテ」に泊り、北八ヶ岳の「天狗岳」に登ってきました。ヒュッテの夜は満点の星、翌日は 360 度の大パノラマを堪能しました。

日 時：H24年 10月 7日(日)～8日(月・祝)

メンバー：村上和史(幹事・PL)、恵谷浩、熊谷忠輝、三浦静止、木村夫妻、秋山夫妻 計8名

【1日目】：10月7日(日)

- ・ 8:00 発 「新宿」発 特急「スーパーあずさ5号」立川駅、八王子駅からも各自乗車
- ・ 10:06 着 「茅野」駅着 バス停にて全員集合
- ・ 11:16 着 「渋の湯」バス終点着(乗車時間約50分)
- ・ 11:55 発 「渋の湯」出発
- ・ 15:10 着 「黒百合ヒュッテ」着 【宿泊】

【行程】

- ・ 樹林帯の中の急登を経て、終盤は谷を詰める。道は大きな岩がごろごろしており、朝方までの雨で濡れていたためスリップする。何とかコースタイムどおりで小屋に到着。気温は摂氏2度、歩いているときはビールが楽しみだったが、あまりの寒さに気持ちは吹っ飛ぶ。
- ・ 黒百合ヒュッテは古き良き山小屋の雰囲気を残す素晴らしい宿だ。幹事(村上)の根回しで、二階の個室を確保することが出来一同大満足。今日の小屋は満員だ。食堂の在る一階に降りて、各自



の持ち寄りをさかんに酒盛り。夕食も満足、18:30には就寝（することが無いので）、あとはいびきの大合唱！（私達というより部屋の外がです）

【今日の話】

- ・ 濡れて滑る岩にてこすり体力を消耗した木村夫人。「小屋まであと10分」の声に、「現役時代からあと10分と何度も言われたけど、一度だってそれで着いたことはなかった。」と悲鳴。一同大爆笑！現役時代からとは恐れ入りました。
- ・ 小屋で何飲もうかということになり、満場一致で赤ワイン。ヒュッテ特製オリジナルワインをボトルで3本空けました。熊谷先輩ご馳走様！秋山夫人曰く、「ワイン通だなんてなんと素敵な人たちなんでしょう。ホッピー、焼酎が似合いそうなのね。」おいおい後半は失礼です。
- ・ 山小屋は超満員。私達も個室とは言え6人部屋に8人で就寝。一番困るのは部屋の引き戸を開けるとそこには寝ている人たちの頭。そして引き戸の手前にも籤引きで寝場所が決まった恵谷先輩の頭。とにかく真っ暗な夜中、顔を踏まないようにトイレに行くのが大変でした。でも恵谷先輩は地の利を生かし、夜中抜け出して満点の星空を堪能したとか。

【2日目】：10月8日（月）（祭日：体育の日）

- ・ 6:28 発 「黒百合ヒュッテ」出発（軽装で「東天狗岳」にピストン）
- ・ 8:40 着 「東天狗岳 2,646 米」登頂
- ・ 10:30 着 「黒百合ヒュッテ」帰着 小屋にて昼食
- ・ 11:15 発 「黒百合ヒュッテ」から、「稲子湯」方面へ下山（北八ヶ岳を西から東に横断）
木村夫妻は「麦草峠」方面へ下山
- ・ 14:10 着 しらびそ小屋を経て「みどり池入口」バス停着（14:00のバスに乗れず）
- ・ 15:10 着 「小海」駅着 小海線にて佐久平駅へ、長野新幹線あさまにて東京へ

【行程】

- ・ 朝の気温は-6度。小屋は霜で真っ白だ。予定より早く小屋を出発。岩ごろごろの道になると、表面の霜で滑りやすい。天狗の庭まで登ると、北アルプスがよく見える。スリバチ池を巻いて、岩の道を進む。コースタイムから遅れがちだ。やっとの思いで稜線上の分岐に着く。今度は浅間山や奥秩父山系の視界が開ける。更に尾根伝いにひたすら登り、やっとう頂へ！
記念撮影後、下山開始。ぬかるんだ道と濡れた岩にペースが落ちる。思ったより時間が掛かって小屋に帰着。昼食後下山開始。中山峠で麦草峠を目指す木村夫妻と別れ、山頂からは絶壁に見えた樹林帯の中をしらびそ小屋に向けて一気に下る。いきなり鎖場でどうなるかと思ったが、意外に良く整備された道だった。しらびそ小屋にてバスの時間が14時と聞き、間に合うのではないかと期待が膨らむ。頑張ったがバス停に着いた時は10分遅れだった。
- ・ タクシーを呼び、小海駅へ向かう。小海駅では切符を買うのがやっとなで、ビールを買う時間も売っている売店もない。結局乾杯はお預けとなった（打ち上げやりたかったなー）。この頃に木村夫妻も無事麦草峠からバスに乗ったことを確認。全員無事下山、良かった！連休最終日のため佐久平からの新幹線は大宮駅まで立ちっぱなし。（疲れた～。山より辛かった！）

【今日の話】

- ・ 何と言っても今日のハイライトは360度パノラマビュー。（山頂から北を向いて反時計回りに見ていくと・・・）まず正面に蓼科山・霧ヶ峰、北アルプス（槍・穂が良く見える）、乗鞍岳、御岳、

中央アルプス、南アルプス（甲斐駒、仙丈、北岳、鳳凰三山）、南八ヶ岳の山々、奥秩父山系、妙義山、谷川山系、浅間山などなど。（富士山だけが赤岳に隠れて見えないのが残念！）山にいる人たちは皆素晴らしい景色に喜んでいることだろう。

- ・ 後ろのペースをよく見てゆっくり歩くようPL（村上）から叱られたSL（秋山）。注意して歩いていたのだが、しらびそ小屋を過ぎて状況が一変、熊谷先輩の重圧を受けることに。「そんなペースじゃバスに間に合わんぞ！」「後ろはいいからSL判断でどんどん行け！」「行ってバスを止めておけ！」「PLにはお前が怒られたらええんじゃ！」えーっ、かばってくれないの？ ダンプカーのような突進にあおられまくったSLでした。



【最後に】

こんな機会でもなければ行けない山だからと思い切って参加しましたが、天気と紅葉に恵まれ登頂出来ただけでなく、360度に展開する名だたる峰々を目に焼き付けることが出来たのは望外の幸せでした。北八ヶ岳の木々やコケに囲まれた、特にしらびそ小屋・みどり池あたりの山道はとても趣があって、南八ヶ岳とはまた違った良さを感じました。

このような企画を立てていただいた村上さん、そして愉快的先輩諸氏に感謝します。

（2）九州支部

九州支部では、毎年3回程度の会食と、一泊二日と日帰りの山行をおこなっています。今年はOB総会引き受けのため、通常の活動よりもOB総会準備のための活動をおこなっています。

H24.05.20	総会事前準備会	大名つつじ庵	参加人員	8名
H24.06.02	総会開催場所現地調査	門司地区(矢筈山、風師山)	参加人員	10名
H24.07.21	暑気払い	大名つつじ庵	参加人員	8名
H24.09.22~23	霧立越トレッキング		参加人員	6名
H24.10.13	総会事前準備会	大名つつじ庵	参加人員	14名

霧立越トレッキング

九州支部 S45年卒 経済学部 武富敏夫

九州支部では、毎年一泊二日の久住山行きをおこなうとこととしていたが、今年は霧立越トレッキングを計画した。その訳は、馬の背で物資を運んだ駄賃つけ道を歩き、尾根のためアップダウンが少なく、4人以上であればトレッキングガイドがつくためである。

今回歩いた霧立越は、昭和42年の春合宿の一部であり、その当時の「あるきの記」を読むと、扇山へのピストンはカットしたと書かれている。春合宿のメンバーは、リーダー津森さん、サブリーダー岡部さん、女性の山本さん、同期の1年生では、乙咩、大谷(右田)、銭広、武富(伊藤)、溝上の8名で、松木、波帰、本屋敷等の地名が随所に出てきて懐かしさを覚える。

天神バスセンターから延岡行き的高速バスが出ており、4人が天神バスセンターから、2人が久留米ICで乗車し、五ヶ瀬役場前まで約3時間のバスの旅である。大宰府IC手前の都市高速道路で、交通事故のため渋滞が始まり先行き不安となる。五ヶ瀬役場前に宿からの迎えを頼んでいるので、到着予定時間が遅れると連絡する。

天気予報では明日未明までは雨が残るものの、山行当日は晴れるとのことであるが、九州自動車道の熊本付近から小雨が降り出し、清和文楽の里あたりから本格的な雨となる。今年は山行日だけ天気が悪くその前後は天気が良いことが続いており、今回もそのことが頭の中をよぎったが、とにかく明日は天気が良くなることを祈るばかりだ。

五ヶ瀬役場前から迎えの車に乗車し約25分で宿に到着する。到着後、男性の部屋に全員が集まり、お茶を飲みながらしばらく歓談するが、外は雨が降っているのがわからない程、沢の流れの音が大きく、静かなたたずまいである。

18時から夕食であるが、囲炉裏端には先着で山本さんがすわって手を振って待っている。夕食はイワナのさしみ、エノハの塩焼き等、川魚中心で大変豪華である。翌日の山行きを考慮してアルコールは少なめにした。食事が終わり、しばらくの間囲炉裏を囲んで話の宴となった。やっぱり炭火のほのかな炎と柔らかい温かさは、山の中の一軒宿とマッチし、宿泊客の気持ちをなごましてくれる。一時間ばかり経過したのち、山行きに備え早めに休むため各部屋へと向かう。何と20時前の就寝である。まだ雨音が聞こえてくるが明日は晴れば良いのだが。

未明まで降っていた雨が上がり絶好の山行き日よりとなる。マイクロバスでカシバル峠へ向かうが、ここには五ヶ瀬川の源流がある。登山前のストレッチの後、目をつぶり東の方向を向き、北の方向へ頭を動かし、また、耳に聞こえてくる音を確認する。聞こえてくるのは、風、溪流、木の葉の音であるが、これも「霧立越の歴史と自然を考える会」の会長の秋本治さんの考えによるものであろう。秋本さんは「株式会社やまめの里」の社長でもあり、幻の滝を見つけられたり、植物の本を出版されている。本日は秋本さんがガイドを担当されるが、69歳とは思えないほどお元気である。

雨上がりのため空気はさわやかで心地よい。行く先々で、木、花、きのこや動物の自然界のお話や、平家伝説、西南戦争の歴史等のお話を聞きながら、ゆったりとした歩調で駄賃つけ道を進んで行く。駄賃つけ道には今でも道を掘れば馬のてい鉄が出てくるとのことであり、日肥峠の登山届提出箱の中からはてい鉄を出して見せていただく。白岩山山頂付近ではいろんな花が咲いていたが、アザミの花以外はいずれも花の名前はわからない。

馬つなぎ場は現在では木立が生えているが、昔は草原であったそうだ。以前のこの地域の土地の地目は「畑」であったとのこと。これは焼畑農業をおこなってきたゆえんで、そういえば久住の坊ガツルも野焼きをしないと木が生えて草原が消滅していくとの話を聞いたことがある。

ここで、「霧立越駄賃付唄」を秋本さんの美声で聞く。我々に、「ハイハイ ハー、シッカリシッカリ」の掛け声の協力をお願いされた。唄の一番だけを紹介しておこう。「おどま十三から駄賃付けなろうたよー ハイハイ 馬の手綱で日を送るよー ハー、シッカリシッカリ」。ここから扇山山小屋・扇山までは緩やかであるが200mの登りが続くため、元気をつけるためであろう。ハー、シッカリシッカリで最後の登りを登って行く。

遅い昼食は扇山山小屋まで600m手前の見晴らしの良い地点でとる。予め宿から弁当を頂いていたが、エノハの押しずしがメインで山の昼食としては大変豪華で感激する。秋本さんより食後の

コーヒーを頂き、扇山山小屋を目指す。扇山山小屋は宮崎国体の折、整備されたようで非常に立派な山小屋で、体力があればシュラフと食料をかついで宿泊したい場所でもある。ここから扇山まで600mであるが、約25分で山頂へ到着する。山頂をあとにして、ひたすら内の八重登山口目指して下る。途中烏帽子岩を登り約2時間余りかけて登山口へ到着するが、マイクロバスを見てほっとする。

秋本さんが「おつかれさま、ご褒美」と、マイクロバスの中からビールとジュースを出して、我々に提供してくださった。良く冷えており疲れた体にのど越し爽やかである。

下山後のトレッキングを行い、マイクロバスで宿へと向かう。

宿で着替えて、また五ヶ瀬役場前まで送っていただく。18時48分のバスに乗り込み一路福岡へ。皆さん、この二日間ご苦労さまでした。また、トレッキングガイドと送迎をしてくださった秋本さんには大変感謝しています。

ありがとうございました。



昭和42年春合宿でピストンを取りやめた扇山山頂

中村	山本	本園
武富	前原	龍

(コースタイム)

カシバル峠(8:08) — 日肥峠(8:43) — 白岩山(9:24) — 水呑の頭分岐(9:51) — 馬つなぎ場(11:24) — 見返り坂(12:21) — 昼食・山小屋まで600m地点(13:00 13:40) — 扇山山小屋(14:00) — 扇山(14:43) — 内の八重登山口(16:40)

やまめの里の利用案内(詳しくは電話等でご確認願います)

住所 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字鞍岡 4615 電話 0982-83-2326

ガイド&宿泊料金 9,450円 4名以上の申し込みで横行

旅館「えのはの家」泊 1泊2食・霧立越弁当・登山口及び下山口送迎・保険付ガイド付6コース

- ① 霧立越 ② 三方山・遠見山 ③ 小川岳 ④ シャクナゲの森
- ⑤ 深山ウォーク「カゴが岩屋と化石の森」 ⑥ 幻の滝

6 同期会だより

同期登山に想う

関西支部 S50年卒 工学部 尾儀一郎

私事であるが、この十一月で60歳の大打に乗った。いわゆる還暦である。

まったく、異次元の響きを聞く感があるが、超えてみると、特段の変化がある訳でもない。

しかし、今日が昨日になり、明日が今日になっても、変わらぬ自分がいると思いつつも、時の刻に逆

らえるはずもない。

いつの間にやら、上り坂は終わってしまい、今や下り坂の真っ只中にいることは間違いなさそうである。ここ数年そのことに気付いてはいたのだ。

そんな折、4年前になるか、OB 総会に多数の同期（私以外は本部の面々）が集まった。

全体での懇親後、2 次会を皆で楽しんでいたら、今度、夏のアルプスに行こうという話しになった。私としては、まだ体力のある今のうちに、思い出の山々を辿ってみたい気持ちがあり大賛成だった。皆も同じ思いであったのだろうか、そこのところは分からないが、いちもにもなく話はまとまった。

そんなことで、同期山行き初年度は、二泊三日の予定で蝶ヶ岳を目指すことになり、7 月 18 日、総勢 12 名で上高地に入った。生憎の雨模様であったが、何とも言えぬ感慨の中、その日の宿泊地である徳沢園までは、短くも楽しい道のりであった。

夜になっても天候が回復せず、翌日も微妙な感じであったが、翌々日は好天の見込みであった。そこで、夜のミーティングとなり、早朝出発し、様子を見て天候しだいでは引き返すことを確認した。

はたして、翌朝は小雨の中の出発となった。何とか無事山小屋にたどり着いたものの、最後は風雨が強くなり始め、間一髪のところであった。

結果的に、翌、早朝は満点の星空。やがて、朝焼けに色づく槍～穂高連峰を臨む大パノラマが眼前に拡がり、あまりの美しさに暫し魅せられた。

これで一挙に山心に火がついてしまった。

皆も大感激。最後の下りは体力を消耗してしまい大変な思いをしたものの、大満足のうちに初回は終了した。

以来、一昨年は燕岳、昨年は西穂高と続き、そして、今年は、10/5～10/8 の三泊四日で唐



松～五竜となった。残念ながら天候には恵まれず、五竜を目前の下山となった。翌朝は晴れ上がった白馬三山を見上げつつ、来年の再会を誓った。

これからも無理をせず、頼もしい仲間たちとの山行きを長く続けて行きたいものである。

7 ワンゲル今昔

近況と思い出の断片(故山本前会長を偲んで)

広島 S47年卒 工学部 前田邦男

卒業(部)してから既に40年と半年が過ぎようとし、ワンゲル部の記憶もおぼろになりつつあるが、過日鬼籍に入った同期生の故山本前会長(山本充二、通称^{やまじゅう}山充、^{ながれいし}渾名流石)も偲びながら、近況報告と思い出の断片を綴ってみた。

大学に入ったら山登りをしようと思っていた。山登りとは山岳部がする登山と思い込んでおり、当時のワンゲル部の諸先輩が平川の吉田寮に入部勧誘に来られたのに「野山の彷徨など女子のお遊びには興味はありません」などと放言して、先ずは山岳部の門を叩いたのが昭和43年4月の半ばだった。しかしながら、山岳部の新入生歓迎は、5月連休に大山で雪上訓練をやり、冬用の登山靴や装備が必須と言われ、家庭の事情から奨学金とアルバイトだけの仕送り無しの苦学生が、大学進学条件であった自分には、耐えられない負担であった。従って、当時の山岳部の人達は優しくしたが、山岳部は歓迎の方便山登山参加だけで入部を断念。5月連休明けに恥を忍んで、先述の放言を撤回して、当時亀山の下の方の経済講堂の片隅にあった本部ワンゲル部の部室に入部の門を叩いた。

今にしてなお赤面する思いだが、そこでは「この前の威勢のいい兄ちゃんじゃないか。女子のお遊びですがその気になったのなら大歓迎」と温かく迎えられ、すんなりとYUWVの一員となった。私の大学生活、ワンゲル活動はこのように始まった。

OB会活動は、総会出席が今回(11月3日：於小倉)で4回目位で、会費も払ったり払わなかったりの不真面目会員で、50周年記念誌`あるきの記`の投稿もかなわなかった。故山本前会長も含め、何人かの知人のワンゲル先輩、同期、後輩諸氏との年賀状のやり取り位は続いている人もあるが、山行を共にするといった様な交わりはこれまで出来ていないのが実態である。

苦境にあえぐ建設コンサルタント業界に身を置く一員として、生まれながらの兼業農家の一員であり、長男として、25a(2反5畝)の水田と、1a(1畝：30坪)ばかりの畑を耕作し、廃れゆく広島県中山間地の地域の守人として、老母の息子として、夫として、娘婿として、未だ多忙なのである。

同期の^{やまじゅう}山充がOB会長に就任した総会には出席しており協力を誓ったが、こんなに早く逝くとは思いません、約束を果たせないままに2人の関係が終わったことを悔いる日々である。

卒業(部)してからも山登りは続けたが、本格的登山は、昭和57年春の2度目の屋久島宮之浦登山が最後で、もう30年ばかり昔のことになる。とは言え、広島から別府に向けてのフェリーの利用で、船中一泊、坊ガツルでテント一泊のミヤマキリシマの咲く頃の九重山群の山登りは、毎年新入社員を中心に20人ばかりを連れて、平成6年まで続けたが、これは飲んで歌って花を見ての物見遊山に近く、山登りではない。このため、登山らしい登山はほとんどご無沙汰だが、現住所と生家は20kmばかりの近さであり、背戸山としての中国山地には、生活の一部として、正月の餅つき用の^{なまき}生木(正月餅は今も30kgばかりの餅米を薪を焚いて蒸し昔ながらの杵と石臼でついている)を、浄土真宗門徒として春・秋の彼岸や盆・正月の花(木)としての`シキミ`を、秋には昨今めっきり採れなくなったがキノコ(松茸)を求めて、年10回位は入山している。

これに加えて、ワンゲル活動の経験を生かして、経験工学としての土木、それも専門としてきた河川分野の技術の自己研鑽と技術継承を目指して、広島の一級河川太田川(流路延長102km)を、この15年ばかりの間に4回若手技術者と共に、河口から源流までを6回に分けて遡上し、河川のあり様を考え

これからの在り方を議論してきた。至近の1年間は、故郷に一部石畳道の残る津和野街道を、瀬戸内の廿日市から津和野までの73 kmばかりを5回に分けて歩いた。

あと2・3年でもっと自由になれ、元気であれば、もう一回北アルプスを大縦走して槍に登ったり、四国八十八ヶ所を歩いて巡りたい、芭蕉の歩いた奥の細道を歩きたいと、農作業とジョギングで体力維持を図りながら、事前準備として資料調査を進めている。以上、近況である。

先号のOB通信「鳳翔」に、「ワングル今昔」として昭和42年卒の先輩吉永氏の「部長杯」の記事があり、優勝者として私の名前も2回出ていた。そこで今回は故山本前会長も思いながら、山登りではなく、「部長杯マラソン」と「学長杯駅伝」について、思い出の断片を綴らせていただきたい。

まずは「部長杯マラソン」、OB通信編集者によれば、私が昭和43年(1年生)秋と45年(3年生)秋に優勝しているが、43年に入学(部)して、ワングル部内で長距離走で負けた覚えは無いから、今にして思えば43年春は入部前で44年の秋及び45年春は学園紛争のあおり等で出走できなかったのだと思う。この内、43年秋の初優勝はよく覚えている。コースは前号で先輩が書かれた第1回とたぶん同じで、洞春寺前の石段付近を発着点に山口女子短大の門を入ったロータリーを回って往復するもので、ロータリーで山口女子短大のワングル部員にアメをもらって折り返した覚えがある。復路の終点近くの香山園に向けての登りはきつかったが、見事優勝し、賞品に武富(旧姓伊藤)現OB会会長所有のボロ自転車を頂いた。この自転車が逸品で、「これだけボロなら盗まれることは無い」として頂いたが、私は、「こんなボロは抵抗なく盗まれる」と即座に思った。この自転車で、平川から当時のワングル部練習場の県庁前の県警グラウンドまで3日間ばかり通ったが、私の思い通り、4日目には抵抗なくこの自転車は盗まれた。人間の心理とはそういうものと今に至るまで確信している。

このマラソンの結果を受けて、11月末の学長杯駅伝のチームが編成され、3年生の武富さんが元気で、1年生に私と故山本前会長及び現ワングル顧問教員の田中秀平のトリオがおり、この年の学長杯駅伝にはワングル部の上位入賞にかけてない期待がこもっていた。この年の駅伝コースは、スタートが亀山下の現市民館(当時山口大学本部)前で、6もしくは7区間で、9号線から防府街道を南に下り、山口市仁保に回って故山本前会長の葬儀があった付近を通って、インテルサットのアンテナの下から宮野の山口女子短大を経て9号線を下り、香山園に向けて登り、亀山下にあった経済学部グラウンドがゴールだった。1区の武富会長が好位置につけ、田中秀平君達がよくつなぎ、故山本前会長がアンカー前の区間でインテルサット前を快走して5～6人抜き、エースのアンカー前田に襷を繋いだ。作戦ではエースのアンカー前田が数人抜いて入賞であったから、先に山^{やまじゅう}充が数人抜いて後続が続く展開はしんどかったが、「頼むで」と渡された襷の重みと当時19才の山^{やまじゅう}充の声と顔は今も鮮明に頭に残っている。そして、もう少し待ってくれ、65才になれば協力も出来ると、山^{やまじゅう}充のOB会活動への参加要請を断り続けた自分を、彼の余りにも早い他界を迎えて悔いる昨今であるが、仕事の都合で通夜のみ出席した時の彼の顔が満ち足りていたと思えたのが救いである。

余談だか、学長杯駅伝はその後平川にコースを移し、私は2年生から4年生まで3回1区を走った。陸上部は別格として、当時、硬式テニス部とハンドボール部の同級生(といっても駅伝で顔を会わし話すだけで当時も今も名は知らない)に速い奴がいて、3年連続1区で2位から4位辺りを3人で競ったが、残念ながら3年間共に私が競り負けて4位から5位での襷リレーとなった。奴らは今はどうしているだろうかと思ひ出す。

山大ワングル部、YUWVでの思い出は、夏そして春の合宿や錬成、合ワンやフリーワン、80 km

耐久徒歩、等々と尽きなくある。先日の総会で確認した結果では、同期の工学部の井上和男も7年前にすい臓ガンで鬼籍に入ったという。私の知る限りでも先輩の小松さんや山岡さん中野さん、後輩の久森君等々既に鬼籍に入った者も多い。私に残された時間もそう長くないのかも知れないが、ワンゲルOB会活動も含め、人間として精一杯生き抜かねばと強く思う昨今の日々である。

8 現役活動報告

(1) 夏合宿結果報告

夏合宿報告書 (Aパーティー)

山口大学ワンダーフォーゲル部

目的	夏合宿			責任者	町田 貴明	
山域	北アルプス穂高岳連峰			パーティー構成	オッチェン 4名 メツチェン 2名	
期日	8月24日 ~ 8月27日					
合宿 行程	<u>山中 5泊6日</u>					
AP	湯田温泉駅	名古屋駅	上高地バスターミナル			
	7:30	20:11/22:30	翌5:45			
一日目	上高地バスターミナル	徳沢	横尾	槍沢ロッジ (6:45)		
	5:45	8:05	9:02:	12:30		
	槍沢ロッジ	天狗原分岐	南岳	南岳小屋 (3:37)		
	6:15	7:30	9:25	9:52		
二日目	南岳小屋	中岳	大喰岳	槍ヶ岳	南岳小屋 (5:31)	
	5:30	6:43	7:00	7:43	11:01	
三日目	南岳小屋	北穂高岳	個沢岳	穂高岳山荘 (5:28)		
四日目	6:30	10:04	11:25	11:58		
	穂高山荘岳	奥穂高岳	紀美子平	前穂高岳	紀美子平	岳沢小屋 (6:40)
	5:00	6:22	8:22	9:01	10:00	11:40
	岳沢小屋	上高地バスターミナル (1:42)				
	8:30	9:42				

総コースタイム 29:43

○メンバー紹介

ワングルネーム

マッチ
シャモ
辞書
ジャック
オバマ
おしん

特徴

アニメと麻雀が好きです。信頼できるリーダーです。
長髪で絵が得意な教育学部生。お酒を飲むとすぐつぶれます。
無趣味でちょっと変わってる。根はいいやつなんですけどね・・・
物静かですとにかくまじめ。特に体力面では、期待の1年生！
好きな食べ物は白飯。女子の中では、一番のタフガール
見た目はかわいいお人形。でも、お酒が入ると酒豪に変身。

○エッセンと感想

- ・全体的に今回は栄養のバランスをしっかりと考えました。栄養の勉強もして、万全の態勢でエッセン計画を立てました。しかし、その反動でエッセン代が例年とは比べ物にならない金額になってしまいました。メンバーの体調が崩れなくてよかったです。

○出来事

- ・行程中に年配の男性からプレミアムモルツをいただきました。ただ山行中は禁酒なので、飲めずにとっと合宿中持ち歩いていました。酒好きのメンバーにとっては、これが一番の試練だったようです。

○自由記録（写真・解説など）



- ・AP(アプローチ)にて、
差し入れていただいたスイカを駅のホームでほおぼっています。差し入れていただくのはありがたかったのですが、重くて運ぶときに神経を使うので、メンバーの疲労が貯まる前においしく頂きました。私が経験した中で、わさびチューブの次に悪意が感じられる差し入れでした。

- ・槍ヶ岳山頂にて、

今回の夏合宿でのメインの山、槍ヶ岳の山頂です。山頂で、天気も良く、雲に包まれた時に自然を体全体で感じられた気がしました。やっぱり山っていいですね。



- ・下山後の河童橋にて、

下山後に自分たちが歩いてきた穂高連峰を背に、河童橋で写真を撮っていただきました。メンバー全員が体調不良になることもなく計画通り行程を終了することができました。全員が笑顔で、本当によかったです。

○夏合宿を終えて

・今年の夏合宿は当初は槍ヶ岳を通らない行程でしたが、日程を1日延ばし先輩たちを説得して、2週間ほど前で槍ヶ岳を登頂する計画に変更いたしました。今は、変更して本当によかったと感じています。1年生たちも今回の縦走を通して自信を持ってくれたように感じます。夏合宿の計画を支えてくださった先輩方や、差し入れをしてくださった山口県立大学の皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

夏合宿報告書 (B・Cパーティー)

山口大学ワンダーフォーゲル部

目的	夏合宿	責任者	栗林 道
山域	北アルプス穂高岳連峰	パーティー構成	オッチェン 8名 メツチェン 3名
期日	8月24日 ~ 8月27日		
合宿 行程	<u>山中 2泊3日</u>		
AP	湯田温泉駅  名古屋駅  上高地バスターミナル		
	7:30	20:11/22:30	翌 5:45

一日目 上高地バスターミナル——明神——徳沢園——横尾山荘——道中
 5:45/6:46 7:39/7:58 8:53/9:13 10:16/11:14 11:53/12:32
 ——横尾山荘 (4:01)
 13:03

二日目 横尾山荘——徳沢園——明神——明神池——小梨平キャンプ場 (4:06)
 5:04 6:25/6:41 7:35/7:56 8:15/9:08 10:40

三日目 小梨平キャンプ場——上高地バスターミナル——高山駅  京都駅 (0:05)
 (エスケー 10:30 10:35/12:15 14:27/14:48 21:00
 フ)

四日目 京都駅  湯田温泉駅
 11:15 21:03

総コースタイム 8:12

○メンバー紹介

ワンゲルネーム

特徴

熊八	たまに空気を凍りつかせますが、頼れるリーダーです。
おでん	とにかくイケメンです。クールです。でも、彼女募集中です。
タンタン	シャイボーイ、それだけ…
ガーコ	いさおをいじめるリーダー。オッチェンを押しよけるワンゲルの嬢王様。
いちろー	腹が弱い、関西弁。とってもいいやつ。

いさお	眠りが浅い、高血圧、見た目と体はおじいさんレベル
ネッシー	筋肉ムキムキやん。わが道を行く一匹狼！
めいちゃん	チロルチョコ・トマト・おむすびが大好き。女子を束ねる影のリーダー
白々しい	アイスをあげると喜びます。名前通り白々しい、でもいいやつです。
ボンちゃん	男をあげると喜びます。嘘です。みんなから愛されるいじられキャラ。
ミッキー	本物ではありません、中国産でもありません。

○エッセンと感想

- ・ 卵雑炊（行程二日目 朝エッセン）

普通に炊飯する場合と同じだけの米をいれてしまい、大量の雑炊ができあがりました。

なんとか無理矢理お腹に詰め込んで、少々気分が悪くなってしまいました。

○出来事

- ・ 行程一日目 上高地バスターミナル

たくさんの登山客が集まっており、見慣れない光景にすこし呆気にとられました。しかし、これから自分たちも登っていくんだということを再認識し、気持ちが高揚していました。

- ・ 行程一日目 横尾山荘キャンプ場

老夫婦の方と、どこから来たのか、どういう日程なのか等を少し話しました。また、この先がどうなっているかなども教えていただきました。自分たちは下山が決まっていたのですが、お話を聞いて是非また来てみたいと思いました

○自由記録（写真・解説など）

- ・ 右の写真は横尾山荘キャンプ場にて。

多くの登山客がいらして、キャンプ場にはカラフルなテントがそこかしこに設営されました。部員は見慣れない光景に驚いている様でした。



- ・ 左の写真は明神池にて。

一年生の男子は元気がいいです！カメラを向けるとポーズをとってきます。

- ・ 電車の中にて。

帰り道はみんなとにかく寝ていました。特に、1年生にとっては初めての夏合宿で長時間の電車移動は初めてという人がほとんどでした。

みんなお疲れの様です。



○夏合宿を終えて

今回の夏合宿は、パーティメンバーの体調不良のためエスケープという形になってしまいました。今後、計画を立てる際には今回の夏合宿の経験を生かし、無理のない計画とそれに向けた十分なトレーニングを行うようにしていきたいと思っています

(2) 春合宿コース紹介

今年の春合宿のPL を務めさせていただきます経済学部、2回生の栗林道と申します。今年の春合宿では屋久島の宮之浦岳を目指します。世界遺産である屋久島の島固有の環境から作り出される、大自然を体で感じてきたいと考えています。2年前は積雪のために、計画がサバイバルへ変更になってしまいましたが今年はそのリベンジを果たしたいと考えています。

■1日目 屋久島に到着後、バスで紀元杉へ向かい、ここから徒歩で登っていき。淀川登山口に到着します。ここから、本格的な山行開始となります。標高差のあまりない淀川小屋でテント泊を行います。

■2日目 淀川小屋を出発し、花之江河に向かいます。花之江河は、多様な植物を目にすることのできる湿原です。ここからは、岩肌が露出し始めるので注意しながら歩いていき、九州最高峰の宮之浦岳山頂へ到着します。下山では、第二展望台から登った山を一望したいと思います。この日は、新高塚小屋でテント泊を行います。

■3日目 この日は杉を見ることがメインとなります。樹齢7200年ともいわれる縄文杉や大王杉、ウィルソン株などの有名な屋久杉を見ながら歩いていき、荒川登山口に到着します。

9 編集後記

この度、OB 通信を編集させていただきました農学部 4 回生の馬屋原範聡と申します。

私の事務局を務めた今年は部員数が低迷期から一気に増えた年であり、そのことをうれしく感じています。私の学年でメンバーが1人になってしまってからどうなるかと思いましたが、学年が下がるごとに部員数が増えていき、自分のことのようにうれしく感じました。しかし、それと同時に私の味わうことのできなかつた大人数の同期とで思い出を作るワングルの醍醐味を味わえる後輩がうらやましくも感じます。また、OB総会で部員が増えたことを報告する際に、喜んでくださるOB・OGの方々の話を聞くと、特に現役に対する考え方で共感する部分が最近増えたように感じます。これは私が現役からOBになりつつあるのかなと、しみじみと感じています。

1年にわたり事務局を務めていき、色々なことを経験させていただきました。OB 通信の編集、書類の作成、会費の管理、OB 総会への参加と新しいことばかりでした。最初から分からないことが多く、いつもいっぱいいっぱいでした。お恥ずかしながら、今でもそれは変わっていません。しかし、OB と方々と接しながら仕事をしていく中で、色々学ぶことができました。特に段取りは、重要だと痛感しております。一年間ありがとうございました。

最後に、原稿を寄稿してくださった各支部の鳳翽会員の方々はもちろんですが、本部役員の方々には大変に助けていただきました。今回 OB 通信を無事に発行できたのも皆さんのおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。